

## 挨拶

# 謝 辞

被表彰者代表

倉 永 宏



ただいま表彰いただきました倉永でございます。僭越ではございますが、ご指名でございますので、被表彰者を代表いたしまして御礼を申し上げますとともに、一言ご挨拶を申し上げます。いつも挨拶というのはアドリブでやるのですが、今日はこういう場で変なことを言うといけないと思ったので、一応、原稿を用意してきました（笑）。

まず、私が最初に知財協会とかかわったのは、実は知財協会ではなくPIPAで、平成2年のことです。PIPAは知財協会とは別団体でしたが、事務局が知財協会にあったので、よく出入りさせていただきました。

私が知財の仕事をしたのが昭和63年ですので、3年目には知財協会の仕事にかかわったということになります。その後、平成6年にソフトウェア委員会に参加させていただきました後は、発足したばかりのデジタルコンテンツ委員会の前身のマルチメディア委員会、その後ソフトウェア委員会の副委員長、委員長、それから知財協の役員等をやらせていただきました。

知財協会の活動に入った当初のことを思い出しますと、私はそれまで研究者で、全く知財の素人でしたので、初めて聞くことがたくさんあり、非常に勉強になりました。委員会で得たことを社内に持ち帰って業務に活かし、逆に、社内で疑問に思ったことは委員会に持っていき皆さんに教えてもらいました。委員会で話せないことは、5時以降、懇親会等を通じていろいろと意見交換させていただきました。知財協会で知り合った方々には、本当に日常の業務の中でいろいろと助けてもらったことが多かったと思います。

実に、私、知財の人生がこれで21年目ですが、PIPAを入れますと19年間、知財協会にかかわってきたということになります。今、会社では知財センターの所長をしていますが、これも知財協会が私を育ててくれたおかげで務めることができていると言っても過言ではありません。私をここまで育ててくれました専門委員会の委員の方々、事務局、役員をはじめ、会員の皆様にはとても感謝しております。

また、私がこのように長い間知財協会の活動をすることができたのも、社内の上司の理解があったからですし、知財協会の活動で不在だった時には、私の仕事を部下たちが助けてくれたからだと思います。そういう意味で、社内の人々にも感謝したいと思います。

それから、これは昨年、志村さんが奥様のことで言われたことですが、私もそれを一言、言いたいです。二番煎じで申しわけないですが、ちょっと理由が違うので。知財協会の専門委員会の活動をしていますとあちこち行くことが多くて、全国、北は北海道からとは言いませんが、私は東北から九州ぐらいいろいろな所に行きました。その間、女房をどこかに連れていったかということ、ど

こにも連れて行ったことはなく、よく文句を言わずに我慢してくれたなと思っています。仕事だからという理由で、我慢してくれたのだと思っておりますが。

今回、お祝いで旅行クーポン券をいただけるということのようです（笑）。実は昨年、研修の功労賞で、クーポン券をいただいており、女房とどこかに行こうかと相談し、「これだと伊豆か箱根かな」なんて話をしましたが、結局行きませんでした。今回はまたいただけるので、両方合わせればもう少し遠くに行けるのではないかと思います。今までの感謝を込めて、女房とどこかに出かけてこようかなと思っております。

最後に、お願いがあります。私のように知財の専門家を育てるには、やはり知財協会のこういう専門委員会等の活動は非常に役に立つと思います。多分、今、私がここでこうして話すことができるのも知財協会の活動があったからですし、今のような会社の仕事ができるのも知財協会のおかげだと思っています。皆様の将来有望な部下の方々は、今が一番忙しいときだと思いますが、会社の業務を少し犠牲にしても協会の活動に出してもらって、大きく育てていただきたいなと思います。是非ここに集まった会員の方々には、そういう機会をつくっていただくようお願いいたします。

これからも会員の皆様の力で知財協会をさらに発展させていただくことを祈念しまして、御礼のご挨拶にかえさせていただきます。本日は本当にありがとうございました。

